

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと学力各層への指導の充実	2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 1学期には校内を、2学期には校内・校外を対象にし、授業公開週間を設置しているが、校務や持ち時間の関係から授業見学に行く回数に限られてしまっている。 各学年における上位層と下位層との学力差が大きくなっており、上位層形成と下位層指導の両立が望まれている。 授業態度はよいが、全体的におとなしく自発性に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2学年においては、休日の過ごし方を含め毎日規則正しく自学自習するという習慣が確立されていない生徒が見受けられる。 授業態度がよく、指導にもよく従うが、より発展的自発的に学習内容を深めていこうという態度に乏しい。 受身的な学習態度で、自律的に学習できない生徒が増加傾向にある。 3学年ともに学力の多層化が進展している。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 教科内及び教科を越えてお互いに授業見学を行い、自身の授業に生かす。 生徒の学習意欲を高める教材の開発や授業方法について研究し、共有を図る。 成績不振者に対し、教科と学年との連携を図り早期かつ継続的に指導し、学年末の成績不振者ゼロを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な学習集団を育成するための、「入り口指導」を始めとした節目指導の充実。 学年の一体感を尊重した上での、学力層別指導の充実。 自学自習時間：平日「学年+2」時間、休日「学年+5」時間の達成率80%以上
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1学期には校内での、2学期には保護者や地域に公開しての授業見学・研究会を実施する。 SSH事業である「授業カリキュラム開発」に、教科主任会議を活用するなど組織的に取り組み、分野融合、教科横断型の授業、主体的で協働的な学びを実現する授業方法の研究に取り組む。 学力差に対応した授業の展開方法や指導法について、教科内や教科間で研究を重ね、実践的に取り組む。 定期試験後には、成績不振者についての情報を学年と共有して生徒一人一人の状況を把握し、教科担任による面談や個別指導を行うなど早期に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な学習集団の育成のため、年度当初の「入り口指導」をはじめとして、各学期、行事等の節目を見つけて、学年集会等、きめ細かな取り組みを行う。 予習-授業-復習-質問の学習サイクルの確立や、毎日の自学自習開始時間とその場所の確定等、学習のしかたを面談等できめ細かく指導する。 学習に対する内発的動機付けを高めるため、SSH事業とも連携し生徒の知的好奇心を刺激する機会を増やす。 土曜講座について、学年担任団が教科担任と連携し、学力各層の生徒に対応できる講座を設ける。
⑥評価 *栃高評価満足度%は1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、()は5(わからない)の割合を表す < >・・・昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の校内授業研究会、2学期の授業公開を、ともに予定通り実施した。10月の授業公開では、来校者は、保護者39名、教育関係者33名であり、特に教育関係者が伸びた。研究授業を行った教員は、昨年の5名から23名と大きく伸びた。 2学期の授業公開は、SSH授業カリキュラム開発の一環として行われ、生徒の学習意欲を高める教材の開発や授業方法について研究し、共有を図る機会として機能した。 毎週1回の主任会議、学習連絡会が機能し、学年間、教科間の連携が図られ、成績不振者に対する個別指導機会が増えていると評価する。授業場面での学力層別指導、あるいは生徒間の相互作用を育む指導法の開発と実践が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに、「入り口指導」を始めとして、学期の切れ目あるいは行事終了後には「節目指導」を行っている。学年が進行するに従い、自律的な学習集団の育成に効果が発揮されている。 各学年ともに、平日課外、土曜講座等と個別指導を組み合わせる学力層別指導をきめ細かく行っている。低学年時には下位層への指導を手厚く行っている。学年集会、学校行事等により学年の一体感を意識した指導も行った。学習時間の少ない生徒には、学習モデルの提示などを行っている。中位層へのケアが課題である。 10月学習実態調査では、平日の学習時間達成者率は、1年22%、2年8%、3年32%。休日は、1年11%、2年7%、3年31%。
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> センター試験の結果からは、個別指導の強化が功を奏していると評価できる。継続して実施願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自学自習時間の達成率評価Cについて、分析や他校との比較・検討を行い、必要な指導をお願いしたい。
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> SSH授業カリキュラム開発との連動性をますます高め、年間を通して、「教員一人一授業研究」の実現を目指し、年度当初より組織的な取り組みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜講座の性格付けを再確認し、長期的視野に立って、より戦略的に内容構成に取り組む。SSH事業との連動をより明確にし、授業改善を進め、受動的ではない学習集団の形成を随時図る。

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、学習意欲の向上を目指している。 生徒への個別対応が重要性を増しており、時機をとらえた効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内模試データによる校内ランキングの見直しや、進路指導委員会に向けての事前検討会を充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動を通して、1、2年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 土曜講座（全員講座・希望講座）の実施形態の工夫とともに内容の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内模試による校内ランキングの見直し、各種研究会等の適切な情報提供を通して、進路指導委員会を充実させる。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事の計画、実践により生徒の進路意識高揚と学習意欲向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年次の進路検討会を実施し、志望校等についての情報の共有を図り、低学年から進路情報の提供を充実させる。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 学年や時機に応じた生徒個人面談の内容の充実など、三年間を見通した進路指導のノウハウ継承を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「高大接続改革」に関して、入試改革に向けた準備を進めるとともに、効果的な取り組みについての研究を行う。 	B
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上のために、土曜講座の実施形態（全員講座と希望講座、層別指導の組み合わせ）を工夫し、実態とニーズに合わせて計画・実施し、充実したものにするるとともに外部へも発信していく。 多くの教員との面談を通して自己理解を深めるとともに、キャリア教育の各種取り組みにより進路意識を高揚させ、学習意欲の向上につなげていく。 これまでの取り組みの蓄積（各学年のLHR資料や学年独自の進路関係行事の実施記録、長期休業前指導の資料、各資料や行事の意義を明文化した資料など）を活用し、三年間を見通すことで、LHR以外にも積極的に進路学習の機会を設定できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内ランキングの見直しを丁寧に行うとともに、事前検討会を充実させ、収集した情報を、チューター制度を活用し生徒の進路希望の実現と教職員の研修に生かしていく。 個別大学模試の分析や追跡調査、業者の分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や、進路学習室・大掲示板の活用や各クラス進路委員の活動を通しての恒常的な情報発信など、情報提供環境を充実させる。 「高大接続改革」に関して全職員で情報を共有し、1年生の取り組みに対し、学校全体での支援が行えるようにする。 	
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 %は1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、()は5(わからない)の割合を表す < ……昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価②（土曜講座の充実） 生徒 63% (5) (64(6)) 保護者 74% (18) (62(31)) 別の調査では、生徒の希望講座の満足度は高い。生徒のニーズに合わせて全員講座をさらに充実させていく必要がある。 栃高評価④（3年間を見通した進路指導） 生徒 89% (3) (86(6)) 保護者 97% (1) (83(10)) 年々割合が高くなってきている。特に1年生の割合が例年より高い。(95%(5)) 面談週間以外にも時機に応じた個人面談が多く行われている。 		<ul style="list-style-type: none"> 進路指導委員会では、個々の生徒に応じた対応やアドバイスをさらに充実させる必要がある。 栃高評価⑥（進路に関する情報提供） 生徒 89% (2) (86(3)) 保護者 89% (3) (87(6)) 1、2年生で90%を超えるなど、その割合が年々上昇してきており、情報の提供は充実してきている。 1、2年次の進路検討会については、志望校の検討だけでなく、次年度のクラス分けのための情報共有にも役立っている。 高大接続改革についての最新情報の収集と共有を継続している。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 三年間を見通した進路指導は評価できる。さらに高みを望みたい。土曜講座の内容を、もっと保護者にPRしてほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> 大変すばらしい。更なる進化を期待したい。高大接続改革に関する校内での取組を継続して充実願いたい。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 土曜講座の全員講座については、教材の選択や習熟度別の開講など、学年の実態に応じてさらなる工夫をする。 LHRに限らずクラス単位で、時機を捉えた進路指導の時間が確保できるよう工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> 進路指導委員会に向けた面談や事前検討を通して、生徒把握や個々の生徒への対応の質の向上に努める。 「高大接続改革」にともなう入試改革への対策を学校全体で着実に進める。 	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】
②重点課題	5 利用の質的な向上をめざした支援体制の整備	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度には年間貸し出し数5,000冊越えの記録を達成した。また、150冊以上借りている生徒も複数いる。平成29年度は2,280冊であった。 ビブリオバトル連続入賞等、図書委員会を中心に読書推進活動も盛んである。 調べ物の情報源が書物からインターネットへと移行しつつある中、やや知的な娯楽読み物への要望が多いが、利用者の知的水準向上を図れるような働きかけを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動が嫌いで、すすんで体を動かす習慣のない生徒も多い。 健康的な生活習慣に関する様々な情報について、生徒が十分理解できていなかったり、インターネット等からの情報により意思決定・行動選択している場合がある。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 年間貸し出し数2,500冊以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 週3日以上運動を実践する生徒80%。
	<ul style="list-style-type: none"> 「読書アンケート」による実態把握及び運営方針・サービス内容の適正化。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会を活用した「保健だより」の発行と健康的な生活習慣の実践。
	<ul style="list-style-type: none"> 文献情報センターとしての利用促進と支援体制整備。 	
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「読書アンケート」を実施、利用者の読書の実態や目的を踏まえ、理想的かつ現実的な図書館サービスを進める。 教科指導とのタイアップ、「としょあんない」等の印刷物、図書委員会活動の充実、イベント、ホームページ、展示方法の工夫等を組み合わせ、利用者の読書の質の向上を図る。 「文献引用シート」の作成と活用を促進する。 以上の取り組みを通し、年間貸し出し数2,500冊以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を工夫するとともに体育的行事等で運動の楽しさやその効果を実感させ、運動を習慣化するよう指導する。 健康的な生活習慣に関して、教科での指導とともに「保健だより」を活用して正確な情報を提供し、運動・栄養・休養について調査するとともに正しい意思決定・行動選択ができるよう指導する。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体 そう思うの割合を表し、 ()は5わからない の割合表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑦（自ら学ぶ取り組み支援） 生徒 87% (2) 保護者 95% (1) 年間貸し出し数2,200冊。 「読書アンケート」実施し、司書レクチャーを実施するなど運営方針・サービス内容を工夫した。 ビブリオバトル入賞等、図書委員は今年も活躍してくれた。 論文掲載サイトを生徒が利用できる環境が構築できなかったが全国SSH校の論文集は校内2カ所に配置され閲覧しやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑧（健康的な生活を送るための指導） 生徒 73% (5) (61 (7)) 保護者 89% (4) (73 (15)) 運動実施状況 週3日以上1年生 68%(昨年比+1%)、2年生 64%(昨年比+11%)、3年生 37%(昨年比-4%)、3学年の平均は57%(昨年比+2%)で、3年生は実施率が低下し、1・2年生は昨年より増加するとともに全国平均値を上回った。 気候の変化やさまざまな行事等に際し、生徒の健康課題に応じて保健だよりを継続的に刊行できた。また、保健委員も積極的に保健だよりの作成に参加できた。
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ビブリオバトルの連続入賞は図書委員会の活動の成果であると思われる。次年度に論文検索サービスをお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習と両輪となる意識付けをお願いしたい。高校時代の体力向上は、生涯を通じて健康な身体作りに資する。受験にとっても重要である。
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 論文検索・閲覧環境の整備を図る。 図書館環境やサービス内容について可視化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健や体育での授業を通じて、運動の習慣化を図るとともに運動を実施する際の安全面についても理解させる。 「保健だより」の内容をより多くの生徒に活用させ、自ら健康的な環境づくりができるよう指導する。ホームページ等への掲載も継続する。

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導		【特活】	
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事, 部活動, 体験活動に全力的に取り組むための環境整備		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり, 全員参加による学校祭を企画している。昨年は3,000名超の来場者数回復を達成した。地域や保護者から一定の評価を得ている結果であると推察できる。今後は, 更なる質の向上を目指していく取り組みが必要になるものと思われる。 昨年は準備期間は確保できたが, 取りかかりが遅くなり, 校内公開の完全実施には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率も高く, 移動教室, 外国人との交歓会, ポストン海外研修, 県庁堀清掃ボランティア, 生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。県庁堀清掃では, 栃木市役所との協力関係を再構築することができ, 継続実施が確立された。 文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが, 進路実現のための学習時間の確保と, 部活動や生徒会活動等の様々な活動を両立していく難しさもある。 		
④達成目標 達成率 A: 達成できた。 B: 概ね達成できた。 C: 達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員及び関係職員との連携を強化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して部活動加入率80%を維持する。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 準備時間を確保し, 校内公開の完全実施を達成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室(スキー・スノーボード)80名, 次年度のポストン海外研修25名の参加目標人数の達成。 	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員を教職員全体で把握できるように体制を整備する。 実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに, 文化委員と担任との関わりを充実させ, 校内公開, 一般公開を成功させる。 実行委員会だけでなく, 各種専門委員会の生徒会組織全体を機能させ, 学校全体を活性化させる。 本校ホームページを活用し, 学校祭プログラムを事前告知し, 情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動全般において, その意義を各クラスにおいて指導し, 事前指導・研修の機会を設け, 参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして活動に臨めるようにする。 年度初めの部活動加入率の調査と, 中間及び年度末の時点での退部状況の調査を実施するとともに退部者の実態把握に努める。 部活動と学業の両立支援の通知を配付し, 生徒や保護者に周知するとともに, 部活動優先日(金曜日)を徹底する。 移動教室やポストン海外研修においては, その魅力を十分に事前告知することにより, 目標人数を達成する。 		
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し, ()は5(わからない)の割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑩(学校祭の充実) 生徒 90%(1)<93(2)> 保護者 96%(1)<100(0)> 入場者数 3,109名 昨年度 2,624名(過去最高は3,701名) 天候に恵まれ, 雨天であった昨年から入場者数の回復が見られたが, 記録更新はならなかった。 生徒, 保護者とも満足度が低下したが, 概ね良好な評価で, 充実した学校祭であった。 各団体の企画内容の質的向上は, 実行委員から各団体に対して助言があったが, なお改善の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率4月末85%(昨年度81%)11月末80%(昨年度80%)今年度も4月当初から80%を超える加入率で, 昨年比では4%増加した。11月末では減少幅が大きかったが, 80%であり, 高い値を維持している。 ポストン研修参加者は26名(昨年28名), 移動教室(スキー・スノーボード)参加者90名(昨年75名)。 体験活動(県庁堀清掃)は, 栃木市役所と良好な連携がとれて, 熱心な活動ができた。加えて, 地元の住民からの声かけもあり, 地域との交流活動としての意義も果たせた。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 栃高祭は保護者の期待もあり, さらに充実させるべく引き続き支援願いたい。文化部の活動を校内外にアピールする取組を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 少ない活動時間で結果を出している。今後の活躍を期待したい。文武両道ができる有為な人材である意識を様々な活動の中で体験してほしい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 近隣高との開催曜日の調整次第で今後土曜開催になった場合, 多数の同日開催高があり, 入場者数の減少が懸念される。来場者にとって魅力のあるものにするために, 早期からの準備を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人数は少ないが, 部活動を退部した生徒がいる。各個人ごとに, その理由等の実態把握に努めるとともに, 活動内容の質的向上を図る。 		

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上		10 校内生活における規範意識の向上	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 各教科やホームルーム、学校行事等において、生徒自身が安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成につながることを理解させ生徒指導を実践している。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ発生ゼロを目指す。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の苦情件数昨年比50%減を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話等使用規定の違反生徒数昨年比50%減を目指す。 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故防止については、生徒自身が、被害者にも加害者にもならないことを目指し、保健の授業や交通安全講話、ホームルームでの注意喚起など、教育活動全体を通して指導する。 教職員、生徒会交通委員やPTAが街頭指導等を含む交通指導を行い、交通マナーの向上と事故防止に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がお互いの良さを認め好ましい人間関係を築き、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 定期的に学年主任、各部長間で不適應傾向の生徒について情報交換を行い、職員間での情報共有と迅速な対応に努め、必要に応じてカウンセリングを有効に活用する。 「生活アンケート」や「QUテスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。 携帯電話等使用規定をはじめとする校内規定の遵守については、内面的な自覚を促し、自主的にマナー向上に努めるように指導する。 	
⑥評価 *栃高評価満足度%は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑫（交通ルールの遵守やマナーの向上）生徒78% (4) <79(4)> 保護者92% (4) <83(13)> 交通事故発生5件。昨年比+1件。交通委員の活動やPTAの積極的な協力が目立ったが、4月～8月で4件、自転車登下校中の事故が発生した。 交通関係苦情と通学マナー苦情の3件。昨年比+1件。職員、生徒による定期的な街頭指導を予定通り実施できた。PTAと合同の通学路点検を実施できた。 		<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑬（生徒の規範意識を高めるための指導）生徒79% (4) <82(5)> 保護者91% (5) <84(14)> 栃高評価⑭（携帯電話のルールの遵守と情報モラルの向上）生徒79% (3) <84(14)> 保護者89% (1) <83(11)> いじめ発生5件 昨年比+3件。本校のいじめ防止基本方針に基づく行動計画により、いじめの正確な認知と組織的な対応で早期に解決することができた。 携帯電話等規程違反生徒21名指導。昨年比+8名。携帯電話等への依存傾向が強い生徒が増え続けている。また、SNSでの誹謗中傷によるいじめが目立つようになった。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 比較的交通マナーは良いと思う。引き続き、交通事故発生ゼロを目指して活動願いたい。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめについては、初期の段階で状況把握ができるような方策を引き続き実施願いたい。携帯やSNSの使い方のセミナーも良い。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 4～8月に登下校中の交通事故が集中している。1学期の交通講話の内容なども含めて、自転車運転中の注意喚起に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> ネットトラブルの未然防止、早期指導について、生徒指導の場面だけでなく、各教科、特別活動など学校全体で指導に努める。 	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み 【保健厚生】	i 広報活動の充実 【渉外】【教務】												
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善	1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開												
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 清掃や教室周辺（特にロッカー上）の整頓について、時期やクラスによって不十分な場合がある。 可燃ゴミと不燃ゴミとの分別回収は概ね良好であるが、故紙との分別が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」を年2回発行している。 PTA評議員会を年4回開催している。 PTA総会、PTA支部会、学年研修会において進路・学習・生徒指導等の取り組みや現状についての情報提供を行っている。 「校報」を年4回発行している。 一日体験学習募集ポスターの送付を行っている。 中学校訪問用持参資料の作成と中学校訪問を実施している。 ホームページの定期的な更新を行っている。 												
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="353 459 1115 545"> <ul style="list-style-type: none"> ロッカー上など教室周辺の清掃を徹底し、定期的に行う環境チェックでの指摘ゼロを目指す。 </td> <td data-bbox="1115 459 1182 545">B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="353 545 1115 632"> <ul style="list-style-type: none"> 故紙を中心としたリサイクル活動を促進し、可燃ゴミの量について月平均1,000kg未満を目指す。 </td> <td data-bbox="1115 545 1182 632">A</td> </tr> <tr> <td data-bbox="353 632 1115 715"></td> <td data-bbox="1115 632 1182 715"></td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ロッカー上など教室周辺の清掃を徹底し、定期的に行う環境チェックでの指摘ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 故紙を中心としたリサイクル活動を促進し、可燃ゴミの量について月平均1,000kg未満を目指す。 	A			<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1182 459 2011 545"> <ul style="list-style-type: none"> 情報の共有を深めるため「PTAだより」の内容の充実。 </td> <td data-bbox="2011 459 2078 545">B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1182 545 2011 632"> <ul style="list-style-type: none"> 生徒や教員及び保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数 30 校。 </td> <td data-bbox="2011 545 2078 632">B</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1182 632 2011 715"> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの月間アクセス数 38,000 件。 </td> <td data-bbox="2011 632 2078 715">B</td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有を深めるため「PTAだより」の内容の充実。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や教員及び保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数 30 校。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの月間アクセス数 38,000 件。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ロッカー上など教室周辺の清掃を徹底し、定期的に行う環境チェックでの指摘ゼロを目指す。 	B													
<ul style="list-style-type: none"> 故紙を中心としたリサイクル活動を促進し、可燃ゴミの量について月平均1,000kg未満を目指す。 	A													
<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有を深めるため「PTAだより」の内容の充実。 	B													
<ul style="list-style-type: none"> 生徒や教員及び保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数 30 校。 	B													
<ul style="list-style-type: none"> ホームページの月間アクセス数 38,000 件。 	B													
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化委員を中心に、定期的に教室周辺の学習環境をチェックする。生徒指導部とも連携してロッカー上の私物散乱等の指摘をゼロにする。 ゴミ分別と故紙回収を推進するため、分別等の表示や掲示を工夫し可燃ゴミの量を減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」に校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。 中学校訪問の時期・内容・対象・地域の再検討を早期に行い、積極的な中学校訪問を実施する。 魅力あるホームページ作りにつとめる。また、一日体験学習の内容をさらに充実させ、ホームページ上での案内を行う。 新任職員を中心に、定期的なホームページ講習会を実施する。 												
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 % は 1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は 5わからないの割合を表す < >…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑮（環境美化とゴミの減量化、リサイクル運動の推進）生徒 59 % (6) <60(6)> 保護者 62 % (22) <50(34)> 定例の教室環境チェックを実施した。ロッカー上の私物については指摘がなかったが、外来者が来校した際、清掃状況について指摘されることがあった。 美化委員会が中心となり朝の落ち葉清掃を行ったことにより、昨年度に比べ残された落ち葉の量が減った。 可燃ゴミ合計量10,557kg(月平均960kg/月・30.4～31.2月)であった。合計量は昨年同期と比較すると減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの写真と記事が掲載できるよう「PTAだより」の紙面の使い方を工夫した。 中学校訪問では県外も含め 109 校の中学校に文書を送り、昨年度依頼が少なかった地区には電話での連絡も行ったが、実施の依頼があったのは 16 校にとどまった。 ホームページの月間アクセス数は、3月15日現在で約 23,400 件 / 月にとどまっている。 												
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 以前に比べてきれいになっており、日々の継続した活動が大切である。可燃ゴミ量が減少に転じたことは、活動の成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問は重要であり、引き続き訪問校が増加するよう配慮願いたい。中学生に「栃高の正確な姿」を知らせる方策を考えると良い。 												
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化委員によるリサイクル活動を継続し、環境負荷の軽減について意識を高めたい。 教室や廊下、ロッカー上の整理整頓や清掃は継続するが、特に各種テスト後にロッカー上に私物が置かれることから、クラス担任や清掃監督者と連携して適切に整頓させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」の内容充実を継続する。 訪問中学校数を増やせるよう時期や方法を再検討し、PRの方法も工夫する。 ホームページの更新を今年度以上に積極的に行い、かつホームページの魅力アップの具体的方策を検討する。 ホームページ、中学校訪問を含めた栃高のPR方法を再度検討する。 												

①重点目標	j 国際社会で活躍できる有為な人材の育成	【SSH】
②重点課題	1 3 課題研究指導方法の確立	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が課題設定をすることにより主体性が育まれ、ゼミによる生徒間相互評価の充実により批判的思考力、協働性、国際性の醸成が図られるようになった。しかし、テーマ設定等の計画段階でつまずく生徒が散見され、モチベーションの低下につながっている。また進路意識の向上や教科学習へのつながりに乏しい面がある。 	
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・校内発表会で2年生全員発表の実現。	A
	・テーマ設定から研究計画書作成までの指導の充実。	B
	・課題研究における外部発表件数の増加。	B
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> テーマ設定から計画書作成の個別指導をSSH部全員であたる。 相互評価の時間を充実させ、生徒が思考する時間と、教員が指導する時間を十分に確保する。 ゼミ担当職員の課題研究評価体制を見直す。 教員が使用する課題研究評価用ルーブリックを用意する。 論文掲載サイトの効果的な利用法を模索し、生徒が活用できる環境を構築する。 早期から全員発表の在り方を検討する。 外部での発表の場を模索する。 	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1そう思う+2大体そ う思う の割合を表し、 ()は 5わからない の割合表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究計画書の添削、個別指導にSSH部全員であたる事が出来た。 相互評価の時間を十分にとることは出来たが、議論を深めるための工夫が必要である。 ゼミ担当職員用のためのパフォーマンス評価ルーブリックを用意した。 論文掲載サイトを生徒が利用できる環境が構築できなかったが全国SSH校の論文集は校内2カ所に配置して閲覧しやすくした。 1学期から全員発表について議論を重ね、今年度実現に至った。 外部での発表の場は昨年同様2件にとどまった。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 全員発表は画期的であり、継続実施願いたい。先進的な取り組み、意義ある活動として定着している。内容の充実を期待。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 国際性の育成に資する具体的な事業展開を開始したい。 全職員が関わる課題研究指導法のさらなる改善を図りたい。 	